

# 吉田 茂 国際交流基金

## 第13回 八百津町中学生海外派遣事業

平成27年度 中学生海外派遣研修を終えて

八百津町教育委員会 教育課 課長 吉田 司

### 1. はじめに

今年で13回を数える中学生海外派遣事業。今までに、255名の中学生がアメリカ合衆国を訪れ、ホームステイを経験しています。ほとんどの生徒が、初めて異文化に触れ、考え方の違いや生活様式の違いなどを感じたのではないのでしょうか。この経験が、彼らの大きな財産となっていることを信じ、将来に役立てて欲しいと思っています。

私の子どもも第3回と第12回の海外派遣事業でお世話になり、それぞれが、「もう一度行ってみたい。」と話してくれました。そして、私が団長としてこの事業に参加することを大変よろこんでくれました。今回、参加した18名の中学生が、「もう一度行ってみたい」と言ってくれるような研修とするため、安全に帰国することを最優先に考え、引率しなければならないと思いました。

今回の研修参加者の決定にあたり、海外研修に参加する理由などを記した作文、英作文の提出を求め、2日間の日程で面接を行い、応募の動機、研修意欲、今後の自分にどのように役立てるかなどの内容を審査し、八百津中学校17名、八百津東部中学校1名(男子8名、女子10名)の18名を決定しました。4日間の事前研修では、ALTから英会話を学び、また、現地のパーティーでの出し物の決定、合唱、盆踊りなどの練習を行いました。そして、保護者のみなさま方には、お忙しい時間の中、それぞれのお子様の渡航準備をしていただきました。結団式では、「吉田イビサ会長、両親や研修に関わる人達に感謝し、研修に臨みたい。」とあいさつした生徒がおり、みんなの研修意欲を感じました。こうした生徒達と過ごした10日間を報告させていただきます。

### 2. 8月12日 出発式からホームステイの始まりまで

集合時間の午前11時45分に、参加者18名と引率者4名が元気に集合し、町長、教育委員長、教育長等の出席をいただき、出発式を行いました。生徒達に不安そうな顔は感じられず、非常に頼もしく見えました。多くの保護者に見送っていただき、研修がスタートしました。中部国際空港で出国手続きの後、30分ほど自由時間をとり、飲み物などを購入し、その後、飛行機に。国際線は初めての生徒がほとんどのような様子でした。外国人のキャビンアテンダントの接客サービスにやや緊張気味。それぞれ、映画をみたりおしゃべりしたりして過ごしました。中には、飛行機に酔い、気分の優れない子もいたようです。

いよいよアメリカ合衆国、デトロイト空港に到着。入国検査は生徒達にとって、初めての難関であったと思います。そこは、検査官と1対1での手続きが必要で、入国目的、滞在期間等の質問、指紋の採取、写真撮影と行われました。優しくそうな人、スキンヘッドのコワモテの人、日本語混じりで手続きを進める人、生徒が初めて交流する？現地のアメリカ人でした。飛行機酔いの生徒も頑張っていました。デトロイト空港で入国手続きを無事済ませた後、ワシントン空港までの国内線に乗り換え。周りはほとんどアメリカ人で、我々こそ外国人？でした。アナウンス、機内サービスはすべて英語で、飲み物を頼むのも一苦労。ワシントン空港では、現地コーディネーターとしてお骨折りいただくMrs.Rustが2人の子どもさんと共にお出迎え。「お世話になります！」引率者の滞在中のSleepInnホテルまでバス移動。どの生徒も初めて見るアメリカの風景に感動している様子でした。SleepInnホテルに到着し、駐車場でホストファミリーと初顔合わせ。私の片言英語のあいさつの後、それぞれのホストファミリーと生徒を引き合わせ、写真撮影をしました。ホストファミリーのみなさんには、受け入れ生徒の名前を書いたプラカード、風船などを準備して歓迎していただきました。長旅で疲れた顔をしていた生徒もホストファミリーと共に笑顔で写真に収まり、気分が悪かった子もいい笑顔を見せてくれました。順次、生徒達はホストファミリーの自家用車で移動。ホームステイの始まりです。「みんな、頑張れ!!」

